

新渡戸文化短期大学5ヵ年計画（2024年度～2028年度）

新渡戸文化短期大学 経営改革5ヵ年計画
 ～文部科学省経営改革支援申請内容より抜粋～

- 1. 概要 1 P
- 2. 現状分析・目的 2 P
- 3. 人材育成 1 P
- 4. 学位プログラム編纂等、構造転換 2 P
- 5. 経営改善（短大・学園） 1 P
- 6. 推進体制 1 P
- 7. 年度別計画（A3） 1 P

1. 概要

事業概要

●「対象」×「コース」の2つの軸で両学科の改革を段階的に行い入学者を拡大する
 ～フードデザイン学科は2025年度改組、臨床検査学科は2027年度専攻科の開設を検討～

現食物栄養学科：2025年度よりフードデザイン学科に改組し、従来の栄養士コースに加え、社会人も視野に「食」の成長分野のカリキュラムを充実した食生活デザインコースを新設

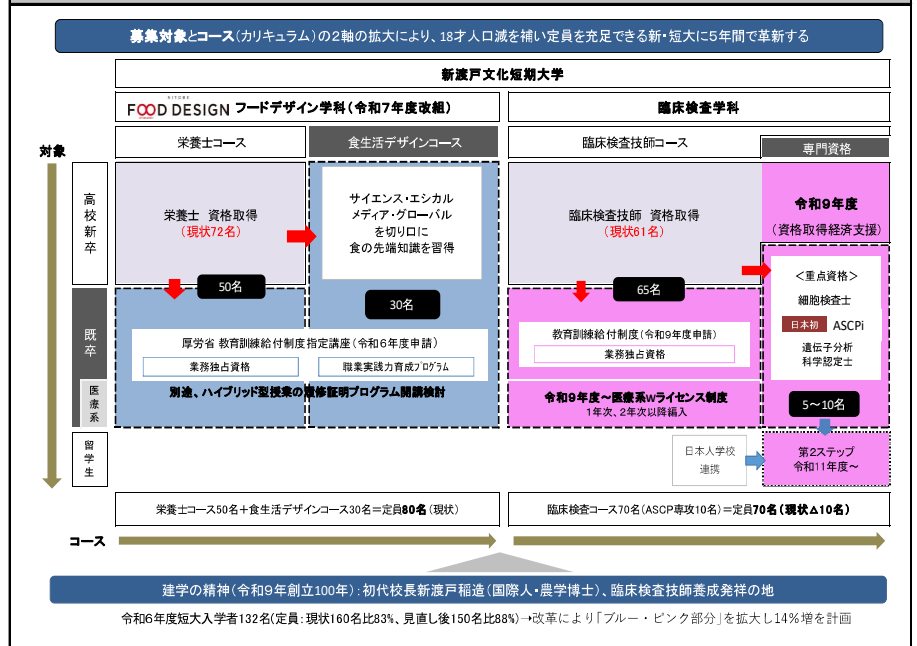
臨床検査学科：2027年度の少人数制への移行時に定員を削減。医療系Wライセンスの対応や専攻科開設により、さらに専門・実践的な資格や国際的な資格(ASCPI等)取得に向けたカリキュラムを充実

<キーワード> 「対象」：18才人口の減少の影響を受けないリカレント・留学生の強化
 「教科」：グローバル・SDGs×地域連携・高校協定×(医と食)連携

※定員推移

		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
フードD学科	栄養士コース	80	70	50	50	50
	食生活Dコース	-	10	30	30	30
臨床検査学科	本科	80	80	80	70	70
	専攻科	-	-	-	10	10

イメージ図



2. 事業内容

(1) 現状分析・事業目的

- ・短期大学の役割は学校教育法で「職業又は實際生活に必要な能力を育成する」とある。本学は1927年に女子文化高等学院を創立後、専門学校昇格時に農学博士・国際人である新渡戸稲造を校長に迎え、その教えを継承し1950年短期大学を設置し今日に至る。
- ・1951年栄養士養成施設への指定・1955年日本初の医学技術士養成施設としての認可を受けて以降、人間が健康を維持していく上での基本となる「食・栄養」と「医療」の分野に多くの人材を輩出し、日本の社会に貢献してきた。
- ・今回の改革は、テクノロジーの発達やグローバル等の時代の要請を踏まえ、新たなカリキュラムを導入し改革を進めることで、「食」と「医」の連携を深めた教育を行い**地域や社会により一層貢献**できる人材を輩出することを目的としたものである。

[現状分析：学科別入学者動向] リクルート総研・私学事業団入試志望動向より

	1都3県			食物栄養系統			臨床検査系統		
	大学 入学者	短大 入学者	進学者	大学	短大	当校	大学	短大	当校
2019年度	500085	48704	8449	4397	2380	57	1573	744	80
2021年度	494208	43121	7545	4433	2205	64	1586	685	82
2023年度	500599	35141	5792	3498	1855	64	2241	629	67
(2024年度)	-	-	-	-	-	72	-	-	61
23/19	100%	72%	69%	80%	78%	112%	142%	85%	84%

- ・臨床検査系統（学科）は四年制大学は増加も短期大学は減少、家政系統は短期大学・四年制大学の両大学とも減少している。
- ・食物栄養学科は家政系統全体の人気低下が、臨床検査学科は直近で関東圏に新設された四年制大学（300人規模）が募集の苦戦要因と推測され、改革の対応は異なる

①既設食物栄養学科（新フードデザイン学科）の改革の方向性（令和6年度～）

他の短大に無い有望な食市場に対応したコースの新設とリカレント向け経済支援の充実

衰退				成長			
集団給食 国内市場		栄養士 免許交付数（人）		サステナブルフード 国内市場予測		フードテック 国内市場予測	
2001年	3.8兆	2001年	22110	2021年	1.6兆	2020年	7百億
2011年	3.3兆	2011年	17984	2025年	-	2025年	10百億
2021年	2.9兆	2021年	16711	2030年	2.6兆	2030年	20百億

[方向性検証に向けた令和4年度～5年度の取組み]

- a：一部カリキュラムの見直しと施設の活性化（インフラ整備）
- ・選択科目：食市場の動向を踏まえ「食空間デザイン」「エンカルフード概論」を導入
 - ・設備投資：「新渡戸フードラボ（食品流通加工室）」「デジタルスタジオ」の設置
- b：リカレント教育に向けた施策を強化
- ・高校既卒：独自の入学金減免制度、早期受験機会の提供（7月～）
 - ・社会人：外部媒体での訴求、厚労省教育訓練給付制度指定講座申請準備

[検証の結果]

- ・食物栄養学科の定員充足率は80%から90%と10%改善（64名→72名）
- ・栄養士資格の必修科目ではない新たに導入した選択科目を6割が履修
- ・栄養士資格を条件としない食関連企業等への就職者の割合が大幅増（40%→60%）
- ・栄養士以外の就職先の開発（求人増9千件）、リカレント（既卒者）の入学者増加

FOOD DESIGN

学科名称を変更し2コース制とする改組による本格的な改革に踏み切る

世界と食文化を理解する「グローバル・SDGs」、先端的な調理技術を学ぶ「テクノロジー」
食の情報を自ら伝える「メディア」等を各分野の第一線で活躍する講師が講義

※2025年度の募集は、新学科告知以降OC参加者は3割増（新コース希望者構成3割）

②臨床検査学科の改革の方向性（令和8年度～）

3年間での国家資格取得の強味を活かし、より実践的な専門資格のカリキュラムを充実

[背景]

- ・医師のタスクシフトに伴いチーム医療が重視、臨床検査技師の役割が高まる中で、当校は創立100年という長年培ったノウハウによる高い国家試験合格率やOB人脈による大学病院への就職実績を強味としてきた。
- ・四年生大学より1年短い3年間で臨床検査技師の資格を取得できる短大の強味に加え、定員規模を適正化し、現カリキュラム（ABCカリキュラム）を少人数制を前提としたより実践的で専門性の高い資格を取得できるカリキュラムに革新する
- ・医療・福祉系資格者（＝リカレント）を対象に、1人2役が必要な地方の医療人材の育成も支援するWライセンス制度の導入も検討。

第1期 令和8年度	第2期 令和10年度
<ul style="list-style-type: none"> ・定員削減 (80→70人、少人数教育方式) ・ABCカリキュラム革新※ (専門資格取得カリキュラム告知) ・医療・福祉系Wライセンス制度 (経済支援、1年次入学対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育訓練給付金対象コース認定 (令和9年度4月申請→10月認可) ・卒業後資格取得カリキュラム導入 (合格実績は令和13年度) ・医療・福祉系Wライセンス制度拡充 (2年次編入検討)

※ABCカリキュラム：Active Learning for Development、Bright Career Challenges

Cooperative Groups Studies

[財務関連]

- ・当校は、子ども園、小学校、中・高校と短大の総合学園だが、短大以外の設置校は探究型学習を切口に入学者が増加、学園全体の教育活動収支は2期連続でプラスを確保
- ・学校別収支は、短大以外の学校は全てプラスとなっており、課題の短大の収支改善により、今後の学園全体の経営基盤をさらに安定させることができる。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
短大	定員充足率	84%	83%	91%	93%	90%
	教育活動収支（百万円）	-22	-102	-98	-23	-60
	人件費率	54.5%	57.3%	56.3%	53.2%	56.4%
学園 (法人)	教育活動収支（百万円）	-5	-175	-104	75	92
	運用資産茶裕比率	129%	119%	107%	118%	122%
	流動比率	295%	411%	308%	350%	456%

(2) 人材育成に係る計画、経営力強化への寄与

(2-1) 育成する人材に係る方針

[両学科共通人材育成方針] コミュニティーカレッジ構想

①地域連携での課題解決

- ・東京23区の西部にあり人口34万人の中野区は、駅前を中心に再開発が進み2035年まで人口増が予測されており、今後も地域の活力の再生と創出に向けた街づくりを重点テーマとし、様々なプロジェクトが進行している。
- ・本学は、中野区との間で「相互協力に関する基本協定」を2016年に結び、相互の人的・知的、および物的資源の交流と活用を図り、地域社会の発展や人材の育成という共通の目的実現のため、相乗的に効果を高める取組みを継続している。(改革は中野区にも相談)
- ・今回の改革は上記取組みをさらに進め、近隣の主に医・食領域の専攻のある高等学校とも協定を締結し、授業の連携や区の抱える課題に合同で取組み、学生や生徒が学校を越えて学ぶ環境づくりと地域の活性化を大きな目的の一つとしている。

②生涯学習機能（リカレント教育）

- ・終身雇用や年功序列制など雇用が安定した社会は、学生時代に習得した知識・技能が生涯有効であったが、人生100年時代では、高度で先端的な知識の習得や既存の技術・知識のアップデートが適宜必要となる。
- ・都心から数分で、20-30代の人口構成が比較的高い中野区に立地する学園での、2・3年間の学び直しは、出産や育児を経て社会復帰を目指す女性や社会人が、専門学校や大学卒業後にスキルアップやキャリア形成する場として最適である。
- ・本学を構成する2学科「食・栄養」と「医」は、人間が生活を営む基本となる健康を維持していく上で最も重要な要素である。今回のカリキュラムの革新により「食」と「医」の連携を深め、地域の産業や社会に貢献できる人材を輩出する。

[フードデザイン学科：栄養士コース]

- ・食や栄養と健康の理念を踏まえた幅広い知識を応用する能力、基本的な調理技術を修得し、現場で活躍できる心豊かな栄養士を養成する

[フードデザイン学科：食生活デザインコース]

- ・日本及び海外の食文化に対する知識と問題解決の手法を習得した上で、より良い社会を創り出すために食生活をデザインする力を習得する

[臨床検査学科]

- ・医療人として高い倫理観を持ち、臨床検査技師としての第一歩を踏み出すために必要な専門知識と技術を身に着けている
- ・臨床検査技師の資格に加え、技術の進化に対応したより高度で専門性の高い資格を取得し、これからの臨床検査の分野でリーダーとなる人材を育成する

(2-2) 学部・学科等の学位プログラム編成等の構造転換

【現食物栄養学科、新フードデザイン学科】 **FOOD DESIGN**

・食生活デザインコースを新設。基礎教育に加え、食品学・栄養学・調理学等の基本的な専門科目は両コース共通で必修。商品開発・食産業等のマネジメントに必要な科目を食生活デザインコース必修専門科目として追加

科目区分		栄養士コース (定員50名)	食生活デザインコース (定員30名)
基礎教育科目		*新渡戸レクチャー 心理学、社会学、法学 日本語表現、基礎英語、英会話、食のキャリア英語 スポーツ実技、スポーツ科学 コミュニケーション、情報機器演習、MOS演習、栄養マルチメディア演習 *ビジネスマナー、*キャリアデザイン *基礎ゼミ	
		12/24 単位	
共通必修科目		*食品学、食品学実験、食品衛生学 *基礎栄養学、*栄養学、応用栄養学 *調理学、調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 食品加工・鑑別論、食品加工・鑑別実験、食品加工流通学 食事計画論、給食計画・実務論	
		21 単位	
専門科目	共通必修科目	体の構造・機能学 体の構造・機能学実習 栄養生化学Ⅰ・Ⅱ 食品衛生学実験、応用栄養学実習 臨床栄養学・臨床栄養学実習 栄養教育論Ⅰ・Ⅱ 栄養教育実習Ⅰ・Ⅱ 学内給食管理実習 学外給食管理実習Ⅰ 公衆衛生学 公衆栄養学概論 社会福祉概論 運動生理学 健康管理概論	フードデザイン論 食文化論 エシカルフード概論 フードマネジメント論 おいしさの科学 応用調理学Ⅰ・Ⅱ・実習 フードテック論 フードプロデューサー論 フードスペシャリスト論 食と地域の課題論 食料経済学 食空間デザイン フードコーディネーター論 フードメディアプロデュース論Ⅰ・Ⅱ
	コース別必修科目	29 単位	32 単位
共通選択科目		保育概論、スポーツ栄養学 製菓・製パン実習、フルクッキング演習、 調理学実習Ⅳ、プロに学ぶ専門料理実習 学外給食管理演習 フードプロデュース実習(演習) 栄養士キャリアアップ講座、食育演習 卒業研究ゼミナール	サイエンス・エシカル メディア・グローバルを 切口に食の最新動向を 学べる科目で構成
		13 単位	13 単位
合計		62 単位～	65 単位～
*は卒業必修科目		栄養士 フードコーディネーター フードスペシャリスト	フードコーディネーター フードスペシャリスト
就職・四年生大学編入			

【臨床検査学科】 定員現状80→70名(10名減)

・長年蓄積した独自の臨床検査技師養成プログラム(ABCカリキュラム)を医療系Wライセンスも視野に革新。国家試験合格者をさらに高め、卒業後もより専門的な資格取得に向けたカリキュラムを、独自の経済支援策と合わせ追加。

年次	基礎教育	専門基礎分野	専門分野
1 年次	*英語、医学英会話 海外語学研修 *化学、*基礎化学、*生物学 *統計学、*体育 健康科学、社会福祉論 心理学、法学、新渡戸レクチャー 日本語、*コミュニケーション演習、	解剖学、解剖学実習 生理学Ⅰ・Ⅱ、栄養学 生化学実習、薬理学 病理学、微生物学 公衆衛生学Ⅰ、医学総論 医用工学概論、医用工学実習 医療機器学演習、情報科学概論	病態Ⅰ、血液検査学ⅠⅡ 一般検査学、一般検査学実習 医動物学、感染予防学 生理機能検査学実習Ⅰ 検査情報処理科学演習 臨床検査専門演習Ⅰ
2 年次	*キャリアデザイン キャリア英語Ⅰ	生化学 臨床栄養学 保健医療福祉総論 公衆衛生学実習	病態Ⅱ、病態解析演習 病理検査学Ⅰ・Ⅱ・実習Ⅰ・Ⅱ 血液検査学実習 生化学検査学Ⅰ・Ⅱ・実習 免疫検査学Ⅰ・実習 遺伝子関連検査学・実習Ⅰ・Ⅱ 微生物検査学Ⅰ・Ⅱ・実習 輸血・移植検査学Ⅰ・Ⅱ・実習 生理機能検査学Ⅰ・Ⅱ・実習Ⅱ 画像検査学Ⅰ・実習 検査情報処理科学 医療安全管理学・実習 技能修得達成度評価 臨床検査専門演習Ⅱ
3 年次	キャリア英語Ⅱ	病態薬理学 公衆衛生学Ⅱ	病態Ⅲ、病理検査学Ⅲ 血液検査学Ⅲ 生化学検査学Ⅲ 微生物検査学Ⅲ 輸血・移植検査学Ⅲ 生理機能検査学Ⅲ 画像検査学Ⅱ 検査管理運営総論 総合医療特論、臨床検査総論 医療安全管理学・実習 臨地実習
卒業後		専攻科開設	資格対策外部講師 専任教員指導(ゼミ)
必修	15/25	21	72

臨床検査技師 【+医療・福祉系Wライセンス支援】



(2-3) 大学等の経営改善に関する計画

① 人事制度改革 (法人: 令和6年度)

- ・等級制度、報酬制度、評価制度を全面的に刷新
- ・学園のVMVや求める教員像を再整理し、評価の公平性や多面性を重視した目標管理制度や360度評価を導入。これまでの年功序列型の報酬体系から、職務とチームへの貢献度・個人の成長度を軸に評価をするパフォーマンス重視型の報酬体系に移行。
- ・右肩上がりで上昇する人件費を収入と連動させ流動化 (人件費総額は現状を想定)

※短大人件費(令和6年度)、285百万

	教員			事務			
	本務		兼務	本務		兼務	
	人件費(千)	基幹 教員数(人)	内教授	人件費(千)	人件費(千)	人数	人件費(千)
フード	64500	8	2	7000	63300	7	9000
臨床検査	100400	12	6	19000	18300	3	4000
短大計	164900	20	8	26000	81600	10	13000

※フードデザイン学科は令和6年度採用と既存の基幹教員2名+外部講師の体制でスタート

※検討中の臨床検査学科は既存基幹教員1名+外部講師の体制を中期計画収支に反映

② 管理会計の導入 (法人: 令和5年度)

- ・各学別と短大は学科別の収支を管理できる仕組みを導入
- ・中期の募集・要員・設備投資計画を基に、年度別の各学校・学科の中期収支計画の作成が可能となり、中期視点での収支上の改善点と対応策を整理
- ・上記2024年度は小学校の値上げ (学年進行で+3百万を6年間) を実施し、2025年度は中学校の値上げを計画。(学年進行で+10百万を3年間)

③ 資産運用の実施 (法人: 令和7年度)

- ・私学事業団のアンケートを参考に運用規程を作り、運用資産の25% (5億) 規模で配当利回りは1.5%を目安にメガバンクの債券を購入。(既に3億は購入済み)
 - ・運用益は短大の奨学金・資格取得のサポートに活用
- ※別途、卒業生・在校生保護者等を対象に、相互交流と寄附による在校生の支援を目的とした会員制組織「新渡戸フューチャーサポーターズ」を新設予定。

④ コスト削減に向けた合理化策

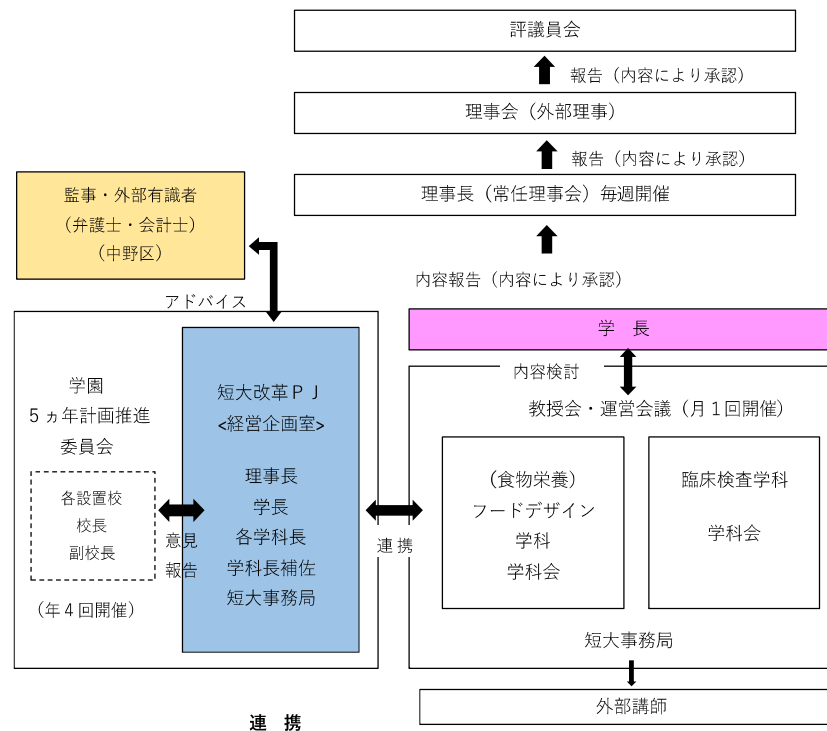
- ・警備の機械化 (短大: 令和6年度)
 - 臨床検査学科のキャンパスを有人から無人の機械警備に変更
 - 警備の業務委託料を5百万削減
- ・PPA方式により太陽光発電を導入 (法人: 令和5年度年度)
 - 学園全体の電力使用量の3割を賄う (経費年間4百万削減、省エネ)

⑤ 外部資金の獲得 (短大: 令和4・5年度)

- ・厚労省からの受託案件を中心に2年間で1"62百万 (臨床検査学科: 令和4年度82百万、令和5年度80百万)
- ・新型コロナウイルス検査精度管理調査の受託事業が大半のため、令和6年度以降は規模縮小が予想。イレギュラーな収入として中期収支計画上は実績も予算も一旦除外。

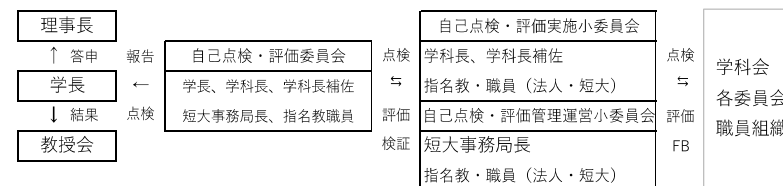
3. 体制

【短大改革推進体制】



短期大学認証評価

- ・令和8年度点検・評価報告書作成、申請
- ・令和9年度評価資料提出・基準協会実施調査



															創立100周年		
		2024年度（R6）			2025年度（R7）			2026年度（R8）			2027年度（R9）			2028年度（R10）			
		フードデザイン学科 （導入準備）			フードデザイン学科開設 （新コース・給付金）			臨床検査学科改革 （導入準備） フードデザイン学科 （改革2年目）			臨床検査学科専攻科開設 （定員減・専攻科）			臨床検査学科改革（改革2年目） 次期中期計画			
募集（人）	入学	短大	フード	臨検	短大	フード	臨検	短大	フード	臨検	短大	フード	臨検	短大	フード	臨検	
	収容（在籍）		132	71	61	130	70	60	145	80	65	153	83	70	153	83	70
		330	129	201	320	137	183	325	147	179	347	159	188	359	162	197	
展開	新学科開設（フードデザイン学科） 専攻科開設（10名）・定員適正化（80→70名） 教育訓練給付金（食生活デザインコース） 教育訓練給付金（栄養士コース） 学費値上げ 臨床設備対応 履修証明プログラム開設（フードデザインDr） NFP立上げ・資産運用 経営改革支援助成金 新教務システム																
	重点目標 第1弾フード新学科開設準備 ・新コース教員体制整備 ・文科省・厚労省諸申請 改革第2弾臨床検査学科改革検討 フードデザイン学科開設（改革初年度） ・翌年度定員80名に向けた募集活動 臨床検査学科改革概要決定 ・定員適正化、専攻科開設文科省申請 第2弾臨床検査学科専攻科開設準備 ・定員適正化届出、専攻科開設申請 フードデザイン学科改革完成年度 ・入学者定員80名達成 臨床検査学科専攻科開設（改革初年度） ・1年次定員70名、専攻科10名募集 フードデザイン学科入学定員充足率100%超 ・学年進行で学費値上げ（10%） 臨床検査学科改革2年目 ・入学定員70名達成 ・収容人員充足率100%目標 両学科次期5ヵ年計画（改革）策定																
タスク	青：フード 赤：臨検 黒：共通 ✓改組文科省届出 ✓厚労省栄養士養成学校定員変更申請 ✓厚労省2コース教育訓練給付金申請 ✓近隣高校高大連携協定締結 ✓文科省経営改革助成金申請 ✓短大改革PJ発足 ・商品開発等の就職先開拓 ・学費値上決定（2027年度～） ・改革1期内容決定 ・教務システム統合要件定義 ・短大生支援NFP開設 ・高大連携協定校・四大編入拡大 ・カリキュラム内容決定（専門資格） ・認定専攻科学位授与機構申請、設備・教員 ・定員10名減文科省届出 ・臨床検査技師入学者合格率80%達成 ・新教務システム稼働（IRインフラ） ・認証評価の点検・報告書作成し申請 ・履修証明プログラム検討・申請 ・教育訓練給付金厚労省へ申請検討 ・学費値上げ決定（2029年度～） ・100周年記念事業 ・中野区・協定校合同課題解決 ・次期5ヵ年計画検討 ・履修証明プログラム1期生募集 ・フードデザイン学科収容定員100% ・教育訓練給付金での社会人募集拡大 ・2029年度学費値上げ募集要項反映 ・次期5ヵ年計画カリキュラム内容決定 ・次期5ヵ年計画教員採用等準備																
	KPI	収容定員充足率															
	経常収支	2027/5/1：89%（347人） 2029/5/1：97%（363人） 経常収支△78百万 経常収支△30百万															
	社会人入学率	2027/5/1：16% 2029/5/1：20%（フード+10p,臨検+5p）															
	国試合格率	80%（合格者/入学者） 85%（合格者/入学者）															
	地域連携	近隣高校との高大連携協定 中野区連携での地域課題解決具体化															
	IR環境整備	新教務システム要件定義 新システム稼働（半年平行稼働）															

※数値計画

		学園			学園			学園			学園			学園		
		短大	他学校	短大	他学校	短大	他学校	短大	他学校	短大	他学校	短大	他学校	短大	他学校	
収支（P/L）	収容人員（人）	1445	400	1045	1445	400	1045	1440	400	1040	1430	390	1040	1420	380	1040
	在籍者	1316	330	986	1321	320	1001	1350	325	1025	1390	347	1043	1395	359	1036
申請数値	充足率	91%	83%	94%	91%	80%	96%	94%	81%	99%	97%	89%	100%	98%	94%	100%
	収入（百万）	21"27	5"20	16"07	21"45	5"05	16"40	21"92	5"12	16"80	22"44	5"47	16"97	22"74	5"71	17"03
	支出	21"15	5"86	15"29	22"10	5"97	16"13	22"47	5"97	16"50	22"84	6"04	16"80	22"95	6"08	16"87
	教育活動収支	12	-66	78	-64	-92	28	-55	-85	30	-40	-57	17	-21	-37	16
	経常収支	16	-66	82	-54	-89	35	-45	-78	33	-30	-50	20	-11	-30	19
	当年度収支	93	-45	1"38	6	-68	74	15	-57	72	30	-29	59	49	-9	58
			★短大収支ボトム			★短大収支改善フェーズ						★短大黒字化(特別収支含む)				

※短大専攻科（人数・収入10百万）は含まず。助成金は2022年度実績で固定（91百万）～臨検定員適正化による助成金削減率減少は考慮せず

※子ども園1～2歳児は2026年度より募集定員25名(▲5名)、短大臨床検査学科は2027年度より募集定員70名(▲10名)